

## 04\_都城高校2年 柿木莉世「『無関心』なままではいけない」

「無関心」なままではいけない

都城高等学校2年 柿木 莉世

日本で今何が起きているのか、どのような政治が行われ、どんな政治家がいるのか、私は何も知りませんでした。しかし、これは私だけでなく、日本の10代の若者の現状ではないかと感じています。

皆さんは、日本と海外の選挙投票率に大きな隔たりがあることを知っていますか？インターネットで調べてみたところ、若者の投票率が高い国はデンマーク。デンマークでは、20代の若者の投票率が70%を上回っているのです。日本は…という、実は40%にも満たないというのです。デンマークだけではなく、諸外国と比較し、日本の若者の投票率が非常に低いという事実があるのです。なぜこんなにも違いが出るのか。無関心であった私ですが、その理由を知るべきだと思いました。

デンマークでは、学校教育の一環で政治について勉強する時間が設けられているそうです。幼少期から学ぶ機会を設けられることにより、若者が国の政策を理解している、あるいは政治に対し積極的に考える姿勢が培われているのでしょう。では、日本はどうでしょう。冒頭でも話した通り、政治とは何か、選挙とは何か、今の国の政策は？私のように理解していない若者がほとんど…もしくは関心のない若者がほとんどなのではないでしょうか。

実は、9月のはじめ、総合的な学習の時間の中で、私たちは「若者の選挙における投票率の低さ」について学習してみてもと学級担任の先生から提案されました。興味を持った私は、まずは身近なところから現状を把握してみようと考えました。

「さて、都城市長さんの名前をフルネームで言える？」まずは、学級の友人たちに質問。「わからん」「どうしたと？急に…」反応はある程度予想通りのものです。続けて「都城市の具体的な政策、少しでもいいからあげてみて！」「人口を増やす…？」「ふるさと納税を…生かす？」何だか少しは知っているようですが、詳しくは説明できないようです。まあ私もなのですが…。

こうした現状がなぜ起きているのか。これは、政治や行政に関わる方々にも私たち若者にも、そして国の教育の在り方にも原因があるのではと思っています。少しばかりですが、学んだり調べたことをもとに考えたことがあります。

選挙に立候補される方々は「公約」を示されます。マニフェストです。私も生徒会役員に立候補した際に、いくつかの公約を掲げました。プレゼンテーション方式での演説でしたが、生徒にとって身近で具体的かつわかりやすい公約を示すよう心がけました。ただ、議員さんたちが掲げる公約は、私たち10代、20代前半の若者にとって身近で分かりやすい言葉になっているか…現状では厳しいと思います。そして、この政策が果たせたらどのような未来が待っているのか…。具体的にイメージしにくいです。また、若者に対しては、SNSの活用が不足していると感じます。今後大幅に拡大することが必要です。短時間にまとめられ、視聴も隙間時間にできるというSNSの特徴を活かしてアピールできます。

若者の投票率の低下を政治家や議員さんたちのせいばかりにはできません。私たちも政治や選挙に無関心でいるばかりではだめなのです。ですが、今まで関心のなかったことに対して、急に関心を持ったり高めたりすることは難しいことです。そのためには、この問題を最初から国や政治といった大きなスケールで捉えるよりも、学校、学年、学級の仲間同士が、より健全に居心地の良い場所にする。そのために何が必要か、自ら考えて運営することの延長線上にあると考えれば良いのではと思います。並行して、スウェーデンのように幼少期から政治に触れさせる教育の導入も進めるべきだと考えます。

投票率が上がる。いつまでも社会や国について何も知らない、「無関心」なままではいけない。若者にとって明るい未来、夢ある社会、国であってほしい。

一年後は私も有権者の一人です。 (1580字)